

子どもインフルエンザも予防接種助成を

要望が多ければ検討

水野 恭子 議員(共産党)

① 学校図書館に専任の司書配置を、図書機能を充実させるためには、担任をもっている司書教諭の配置だけでは出来ない。ボランティア、図書担当、公共図書館との連携、新規図書選定など仕事は多く、補助する人が必要だ。近隣の井手町が4年前から文科省の補助を受けて小、中学校に専任の司書を配置された。図書館は見違えるように

なり、貸出し冊数も増えた。近隣では、宇治市、木津川市、久御山町なども専任の司書配置が広がっている。図書館機能の強化のためにも、専任の司書の配置を、②京田辺市の学校の図書蔵書数は、国の基準に合わずと60~70%である。100%達成できるように増やし、古い本の廃棄をすべ



市中心部に位置する総合病院

を充実させることは必要だが市は司書教諭を配置し、図書館教育にかかわる公務を担当してもらっている。司書を新たに配置することは、財政的な面でも、課題が多く、現段階において司書教諭、ボランティアなどで教育活動として行うことが望ましいと考える。③蔵書数において標準に達できるよう、努力する。

④ 乳幼児のインフルエンザ予防接種に助成を。インフルエンザ脳症で亡くなるケースが毎年あると聞く。子どもの場合、2回接種しなければならぬために大きな負担である。一部でも補助をし、経済的負担を軽減すべき。副市長 第一義的には親の責任であるが、要望が大きければメニューに追加することも検討。

⑤ NPO法人日本人入れ歯リサイクル協会が不要な入れ歯を回収して、ユニセフに寄付し、飢えや病気に苦しむ子ども達を援助する活動をされている。本市も不要な入れ歯回収ボックスの設置を。保健福祉部長 実績のある自治体等の事例も参考に検討する。

高齢者に個別ゴミ収集を

関係部局と連携し検討

① 高齢化社会に対応した施策の実施をという観点から、高齢者世帯や障がい者世帯を対象とした

南部 登志子 議員(緑政会)

個別ごみ収集の実施を提案する。とくに団地やマンションなど、エレベーターのない高層住宅では、週3、4回のごみ出しが困難になってきている。ヘルパーさんも毎日来られるわけではない。また、一人暮らしの方に

とっては、安否確認の目安ともなることから、保健福祉部とも連携して、ぜひ取り組んでほしい。経済環境部長 ヘルパーさんにごみを出してもらいたいと思うが、困難な方もあると思うので、保健福祉部とも十分に連携をとりながら、考えて

みた。保健福祉部長 経済環境部と連携しながら研究していきたい。② ペットボトルや空き缶・空き瓶などの資源ごみの収集を月2回に増やしてはどうか。経済環境部長 月1回の収集で対応できていると考えている。

③ 女性交流支援ルームの夜間・土日の開設を。市民部長 新年度から土曜日の開設をする。④ 女性相談室の出張相談の今後の計画は。市民部長 北部・南部地域で年2回ずつ、計4



上層階になるほど大変なゴミ出し(河原)

残留孤児支援策の充実を

生活実態などを調査する

次田 典子 議員(無会派)



残留孤児京都訴訟終結を掲載した新聞記事(京都新聞、毎日新聞より提供)

① 中国残留日本人孤児の国賠訴訟が和解し、国の新たな施策が実施される。市としても市内在住孤児や家族に対し支援策

を充実すべきだ。孤児らが作られた歴史的経緯や生活実態の厳しさを把握しているのか。市長 孤児の方々と面会し、側面から支援していく。

保健福祉部長 支援相談員を市で配置していく。② 市内に在住する外国からの研修生や実習生の実態はどうなっているか。保健福祉部長 就労が認められている在住資格

者が39人。認められない滞在を含めて140人が24力国から在住している。③ 市長が施政方針にうたっている三位一体の具体的手立てを示せ。職員

の信賞必罰などは当然のことであり、確実に実施するべきだ。市長 市民のニーズを把握し、職員の資質向上をさせながら行政運営を行う。④ ガラガラの巡回バス、市有地無償貸与の商工会館女性センターや、高い単価のゴミ収集民間委託や特殊勤務手当のあり方など、早急に見直すべきだ。市長 市民の立場に立つて、見直すべきものは見直して点検するように

徹底していきたい。⑤ 市内2カ所目の子育て支援センターは2年も計画が遅れている。子育て支援には一刻の猶予もないと思うがどうか。市長 センターは子育て支援の拠点として大変重要と認識している。保健福祉部長 完成までの2年間、他の場所などでの対応も含めて検討していきたい。副市長 少しでも前倒しできないか積極的に検討していく。

⑥ 高齢者が死ぬ思いで待っている介護認定からヘルパー派遣までの期間をもっと短くできないか。保健福祉部長 申請から平均38日かかっているが短くするよう努力する。

議員研修会

地域防災について

2月4日、(株)東京建設コンサルタンツより伊永勉氏を迎え、「議員として災害にどう立ち向かうか」をサブテーマに研修を行いました。災害の大規模化、広域化により地域防災に対する市民の関心も高まっており、市民の安心・安全を守るためには、議会、議員として「何を考え、何をしなければならぬのか」を常に考えておく必要があり、議員活動を行うていく上で参考となる有意義な研修でした。



用語の解説

同報系 (3面右3段目) 同報系とは、防災無線の種類のこと、防災無線には、利用目的により、同報系と地域系(移動系)の2種類がある。同報系は、災害時において、同時に避難勧告や情報提供を行い、屋外拡声器などで住民に知らせることを目的に設置されている。留守家庭児童会(学童保育) (4面3段目他) 留守家庭児童会とは、昼間、保護者が働きに出

て家庭にいない小学生児童を対象に、保護者の希望により児童の放課後の生活を保護育成する児童会のことである。パブリックコメント (5面右1段目) パブリックコメントとは、計画等の策定に際して、案を公表し、市民の意見を考慮し意思決定を行う一連の手続きをいう。AET (6面8段目他) AETとは、Assistant English Teacher の略で、教育委員会や学校における外国語授業の補助を行う助手のことである。外国語教育の充実、地域レベルでの国際交流などを目的に招致される。